

# 創立百周年に想う

代表取締役社長 寺島 憲造



弊社は本年6月で創立100周年という大きな節目を迎えました。これも、ひとえにこの技報に目を通していただいているお客様や大学関係者様など各位のご厚情の賜物として厚く御礼申し上げます。

さて、この時点で少し想像力をたくましくして、100年前の当社創設当時の技術者がいかにこれから会社を、技術を創生しようとしていたかを垣間見てみるのも良い機会だと思います。

当社の設立趣意書から引用すると、「今最も必要ニシテ其ノ販路亦拡大ナル電気鉄道用モーター及之ニ付帯スル電機器ノ製作ハ 専売特許ノ制裁ト技術ノ到ラザルトノ原因ニヨリ 之ヲ内地ニ於テ製作シ能ハザルハ斯界ノタメ遺憾トスルトコロナリ……」とあります。100年前に当社に属していた技術者達は、当時欧米からの輸入にしか頼る術がなかった電機品の設計、製造を自らの手の内にすべく発起したものです。

そのため技術提携先の英国ディッカー社から技術者を招き、また当社の技術者も現地に赴いて研鑽を重ね、ようやく20年間を経過し提携契約を解除でき、真に国産メーカーとして自立したのです。この時の、当社の経営者や技術者を始めとする従業員はいかにこれからの当社の将来に向けて気持ちを一体としていたか、雰囲気としていかに高揚していたかは、想像に余りあるものがあります。現に、先輩諸氏はその後、鉄道部門だけではなく、産業部門においても数々の輝かしい成果を挙げ、今日のわれわれにその成果と精神は東洋電機製造の遺伝子として引き継がれているのです。すなわち飽くなき「技術への挑戦」が当社のルーツであると云えます。100年の間には、戦争があり、災害があり、また経営的危機もあり、それらを掻い潜って現在があるのですが、そのなかで当社の普遍的な価値というべきものは、やはり飽くなき「技術への挑戦」であったことは言をまちません。それこそが当社の根底であり、その志をもつ集団を育成し続け100年先にも存在感を輝き続ける東洋電機製造でなければなりません。

最近の技術は、どちらかというとIoTや自動車の自動運転というように重厚長大なものより情報処理に話題が集中する傾向が強くなりますが、これらも基盤技術のうえに成り立つ応用技術であると理解すれば、その根底にある当社が脈々と先人から引き継いできた、かつ現在でも色あせない「設立趣意書」にある産業を基礎から支える重厚長大的な技術を大事にし、その先の応用技術に展開していくという当社の技術に対する基本姿勢を、100年目の今、あらためて肝に銘ずることもあながち意味のないことではないと思います。

直近の話題で、産業向けで20000min<sup>-1</sup>の大容量同期モータが完成したことは当社の遺伝子も健在であるという証であると嬉しく思いました。

最後に、この100年を機に、交通と産業両拠点を整備し直しています。開発環境も大幅に改善していくなかで、上で述べた先人の心意気を、現在に生きるわれわれの指針として、一層の「技術への挑戦」を続けていくことをお誓いし100年の節目のご挨拶とさせていただきます。